

第3次恵那市産業振興ビジョン（案）へ寄せられた意見と市の考え方（パブリックコメント）

実施期間：令和8年2月5日（木曜日）から令和8年3月6日（金曜日）まで

意見数：6件（1人）WEBフォーム

No.	受付日	該当箇所（ページ）項目	意見	市の考え方・対応
1	令和8年3月6日	(P.22,26) 03 恵那市の産業をめぐる現状と推移	1.(p.22文言訂正)転出・移動の理由 4W1Hで考えた場合、『転出の主因は「就職」「結婚」などのライフステージの変化です。』は、『いつ／時期(When)』にあたり、主因ではないので書き換える。例えば『転出や移動は「就職」「結婚」などのライフステージの変化の際に発生します。特に就職による転出の多さは、若者が求める魅力的な就業の場やキャリアパスが地域内に不足していることが主因であることを示唆しています。企業誘致に加え、既存企業での職種創出や子育てしやすい生活環境の向上など、若者の人生設計に寄り添った定住促進策が不可欠です。』 付加価値率の計算式(p.26の※補足欄訂正)を 付加価値率=付加価値額／売上高 に訂正する。	いただいたご提案の該当箇所につきましては、実態をより正確に表し、「転出の理由は『就職』『結婚』などのライフステージの変化です」という表現へ修正いたします。 p.26の付加価値率の計算式は、ご指摘の通り訂正しました。
2	令和8年3月6日	(P.34) 03 恵那市の産業をめぐる現状と推移	2. (p.34文言訂正)今後の方向性(1項目目) 恵那市民全体の協力による、恵那市の豊かな自然と環境と伝統を活かした、自治体としての総合的な「稼ぐ力(生産性向上)」と「多様な人材の確保・定着」が求められています。 訂正理由:産業分野のバランスを良くすることで恵那市の経済の好回転に転換する。	産業分野のバランスを整え、恵那市の豊かな自然や環境、伝統といった地域資源を活かしていくことや市民全体の協力が不可欠であるという視点は、本市の産業振興において大変重要であると認識しております。本市では第2次ビジョンより、農業や林業につきましてはそれぞれ別計画を策定し、商工業を中心とする本ビジョンと相互に連携しながら推進する体制をとっております。ご意見として承ります。
3	令和8年3月6日	(P.34) 03 恵那市の産業をめぐる現状と推移	3. (p.34文言訂正)今後の方向性(2項目目) 市内販売目的と市外販売目的を明確化してしっかりと地域資源の活用とその商品化のためのマーケティング調査を行い、販売促進のための商品の高付加価値化と経済が好循環する目的でのデジタル変革(DX)を支援する。 理由:市民全体が単なる消費者となって資産が急速に減少していく現象を防ぐ。市外には高付加価値の買いたくなる商品を、市内には、日常消費するリーズナブルな価格の、健康増進の商品を取り揃えるなどの工夫が必要となる。	本市の「稼ぐ力」を強化していく上で非常に重要な視点であると認識しております。ご意見として承ります。
4	令和8年3月6日	(P.52) 06 施策の方向性と具体的な取り組み 06-1「挑戦を後押しする環境の整備」	4.(p.52文言訂正)02施策、産業地域の垣根を超えた... →1 産業間・地域間連携基盤の構築の訂正 異業種や地域内外の企業ネットワーク形成を支援し、市民全体や地域住民、移住者の多様な意見を反映し協働することで、広域的な資源や強みを活用した共同プロジェクトを推進 訂正理由:市民や地域住民や移住者からの視点が本当に利用できる資源や強みの発見につながる	広域的な資源や強みを発見・活用していくためには、事業者間だけでなく、市民や地域住民、移住者の方々など多様な視点を取り入れ、協働していくことが不可欠であると認識しております。ご意見として承ります。
5	令和8年3月6日	(P.70,73) 06 施策の方向性と具体的な取り組み 06-4「地域資源を活かした独自価値の強化と発信」	5.(p.70,73文言訂正)施策02 →02「歴史、食、自然と農林を次世代に繋ぎ滞在が楽しくなる恵那」の創造 →(7)食と農林体験観光の強化 農林体験や地元食材を楽しむプログラムを地元の若い世代とともに協力して、地元の自然／食／農／林を楽しむ深い体験ができる旅を提供する。 訂正理由:総合計画や、食べる推進計画と強く連携させて、地元と観光客が楽しめかつ触れ合える旅を提供する。	総合計画や「たべる推進計画」等と連携し、地元の若い世代とともに農林体験や食を楽しむプログラムを提供するという視点は、本市の観光振興において大変重要であると認識しております。本ビジョンの推進にあたっては、これら農業・林業の関連計画としっかりと連携を図りながら、地元の皆様と協働し、恵那ならではの食や体験を通じた魅力的な観光づくりを進めてまいります。

No.	受付日	該当箇所(ページ)項目	意見	市の考え方・対応
		(p.4, 9, 14) 全般	<p>経済産業省が使う産業振興のための用語には、その用語について用いる時に、意味が抽象的、不透明で、具体性が乏しくなりがちなので、わかりやすい言葉に置き換えたり、説明したりして、市民にわかりやすいものにして、市民がバランスの取れた産業振興に努め、市民の住みやすい経済環境を作り成長させていくことが求められる。また、抽象的な用語は、より具体的な例を添えるべきである。</p> <p>そこで、抽象的な用語や、産業振興ビジョンの中で丁寧に推進していく必要があるのに触れられていない観点について、産業振興ビジョン検討部会に注意を喚起したい。</p> <p>趣旨のところ(p.4) ・GX(グリーントランスフォーメーション) →再生可能クリーンエネルギー中心に転換する(GX,グリーントランスフォーメーション) (p.9) ◎カーボンニュートラル →温室効果ガスについての、排出量－吸収量の国際基準(カーボンニュートラル) ◎ITクリエイティブ →デジタル空間を形にする仕事 (p.14) ・アトツギベンチャー →家業をアップデートし、成長させる経営スタイル(アトツギベンチャー)</p>	<p>専門用語を用いること自体が内容を抽象化したり不透明にしたりするものではございません。一方で、ご指摘いただいた「用語集」に記載のない用語(カーボンニュートラル、ITクリエイティブ等)につきましては、巻末の「用語解説(参考資料)」へ新たに追加し、ビジョン全体の理解が深まるよう改善いたします。</p>
6	令和8年3月6日	(p.17, 22, 64) 全般	<p>(p.17) ・イノベーション →新技術による社会変革(イノベーション) ・スタートアップ →急成長を目指して始動を開始する企業の姿勢(スタートアップ) (p.22) ・ライフステージ →人生の節目におこる環境変化の段階(ライフステージ) ◎キャリアパス →スキルや経験を身に付ける道筋(キャリアパス) (p.64) ◎キャリア教育 →将来の地域を担う若者の勤労観、職業観、自立する能力を育む教育(キャリア教育) ・インクルーシブ →多様な人材の全体を包み込むような(インクルーシブな)</p>	<p>ご指摘いただいた「用語集」に記載のない用語(カーボンニュートラル、ITクリエイティブ等)につきましても、巻末の「用語解説(参考資料)」へ新たに追加し、ビジョン全体の理解が深まるよう改善いたします。</p>
		(p. 67,69, 72, 75) 全般	<p>(p.67) ・ロボティクス →人間の役に立つロボットを実現する工学の分野(ロボティクス) ・リスクリング →技術革新にともなう新しい知識／スキルの習得(リスクリング) ・DX →デジタル技術を前提とした生活やビジネス構造そのものの変革(DX)(p.69) ◎観光DMO →観光マネージメント／マーケティング(DMO) (p.72) ◎文化継承ファンディング →文化継承を目的としたクラウドファンディング(文化継承ファンディング) (p.75) ◎ファクトリーブランド 工場が作る高品質／高技術のブランド(ファクトリーブランド) なお、◎は、用語集に無いもの。用語集だけでは、本文中で何を言いたいのか、さらにわからなくないませんか？</p>	<p>ご指摘いただいた「用語集」に記載のない用語(カーボンニュートラル、ITクリエイティブ等)につきましても、巻末の「用語解説(参考資料)」へ新たに追加し、ビジョン全体の理解が深まるよう改善いたします。</p>